

主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳		
		国庫支出金	起債	その他
鳥取県立図書館開館30周年記念事業	2,702			2,400
将来ビジョン	—			
令和新時代創生戦略	—			
政策項目	—			

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

鳥取県立図書館の30周年(平成2年10月に現在の場所に移転開館)を記念し、公立図書館に求められる役割を考えるシンポジウムを開催するとともに、30年の歩みを検証する展示等の各種イベントを開催する。

(イ) 事業の実施状況

事業	実施内容	会場	参加者数
県立図書館開館30周年記念シンポジウム	Society 5.0が実現する中、未来の公共図書館や求められる教育について、県民の皆さんとの対話の中で考えるためのシンポジウムを開催した。 (日時) 令和2年10月16・17日 (内容) ・記念講演Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ・事例報告 ・文部科学省行政説明 ・パネルディスカッション	鳥取市民会館、とりぎん文化会館、北栄町図書館、米子コンベンションセンター(オンライン参加も可)	会場152人 オンライン620人 (いずれも2日間計)
記念イベント	図書館を身近に感じる、本を楽しむ、本を介したコミュニケーションの機会をつくり、県民と協働で読書振興を図るためイベントを開催した。 ・トワイライトツアー、アフタヌーンツアー 令和2年10月10日及び10月17日 ・トークイベント 米国公共図書館×鳥取県立図書館 (R2. 10. 18) ・青空ひと箱古本市 (R2. 10. 18)	県立図書館 県立図書館 中庭	25人 27人 233人
記念資料展	県立図書館の歴史を振り返るとともに、現在の図書館活動を発信し、県民とともにこれからの図書館の可能性を考えていく機会とするための特別資料展を開催した。 (開催期間) 令和2年10月1日～11月11日 (展示名) 県民に役立ち、地域に貢献する図書館—県立図書館30年のあゆみ—	県立図書館 特別資料展示室	443名
記念誌の発行	鳥取県立図書館開館30周年の節目として、記念誌を発行した		発行部数 150部

イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・シンポジウムでは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現地に講師は招へいせず、オンラインにより、県内3箇所での開催とした。

ウ 成果及び効果

- ・公立図書館に求められる役割を考え、幅広い方に興味を持っていただくことができた。
- ・シンポジウムは、オンライン開催としたため、近県のみならず、全国から多くのオンラインでの参加があった。

エ 課題

- ・一過性のイベントとして終わらせるのではなく、継続的に図書館に求められる役割等を県民とともに考え、職員として意識し続けることが必要。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
デジタル化時代の知の拠点づくり事業	4,782				4,782
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				
<p>(概要)</p> <p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的</p> <p>地域の歴史や文化に関する資料を次世代に伝え残していくため、図書館の貴重な資料のデジタル化を推進するとともに、容易に利用できる望ましいデジタルアーカイブシステムの構築について検討し公開する。</p> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <p>○デジタルアーカイブシステム構築・公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館、博物館、公文書館、埋蔵文化財センターと共同のシステムの調達を行った。 ・システムの構築、データ投入を行い、3月1日に一般公開を開始した。 <p>○とっとりデジタルコレクション公開記念シンポジウムの開催</p> <p>テーマ：「地域の情報をデジタルで！～「とっとりデジタルコレクション」の可能性と活用法～」</p> <p>デジタルアーカイブシステムの可能性や、デジタル化した資料の活用について、講演、ディスカッションを行った。</p> <p>◇期日：令和3年3月14日（日） 会場：鳥取県立博物館講堂</p> <p>◇内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念講演「デジタルアーカイブでつなげる、あなたのまち」 講師：浅野隆夫氏（札幌市中央図書館利用サービス課長） ・事例報告「とっとりデジタルコレクションについて」（鳥取県立図書館職員） ・ディスカッション「とっとりデジタルコレクション」の可能性と今後の展望 コーディネーター：鳥取県立公文書館長 パネリスト：浅野隆夫氏（前出）、県立博物館職員、県埋蔵文化財センター職員、 県立図書館職員 ・参加人数：77名 <p>○資料デジタル化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料のデジタル化（令和2年度分、5年計画の3年目） 『鳥取県郷土調査』（8冊）、旧鳥取図書館資料（開館記念メダル・絵葉書、若槻礼次郎書、写真、遠藤董/画『鳥取城』など（8種）、古地図・ガイド（13点）、板祐生孔版画（62点）、美術資料（書、絵画）ほか 令和2年度末総数：2,333件 <p>○スキルアップのための研修講座の受講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化を担う人材を育成するために、研修会等への派遣を行う予定だったが、コロナウイルス感染症の影響で研修が開催されず参加できなかった。 					

○鳥取県デジタル化計画ネットワーク会議の開催

- ・市町村立図書館長、デジタル化に関心のある大学図書館の担当者に、デジタルアーカイブシステムの概要説明を行い、意見交換を行うことができた。

期日：令和3年2月5日（金） 会場：米子市立図書館 参加人数：26人

イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・デジタル化の効果を周知するシンポジウムを開催した。
- ・デジタル化の取組について周知するため、ホームページ等で広報を行った。
- ・「鳥取県デジタル化計画ネットワーク会議」の参加者を増やすため、公共図書館協議会と併せて開催した。

ウ 成果及び効果

- ・デジタルアーカイブシステムの構築を行い、公開することができた。
- ・市町村立図書館、大学図書館との意見交換を行い、今後のデジタル化に向けて考え方を共有することができた。
- ・効果を広報するシンポジウムを開催し、デジタルコレクションの利活用について啓発を行うことができた。
- ・当初の予定どおり、郷土資料のデジタル化を進めることができた。

エ 課題

- ・公開資料を増やすこと。
- ・職員の経験を蓄積し、知識と技術を身に付けること。
- ・デジタルアーカイブシステムを周知し、活用を進めること。
- ・市町村立図書館や大学図書館等、関連機関との連携を進めること。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳											
		国庫支出金	起債	その他	一般財源								
仕事と暮らしに役立つ図書館推進事業 (暮らしに役立つ図書館推進事業)	7,227				7,227								
将来ビジョン	—												
令和新時代創生戦略	—												
政策項目	—												
(概要)													
ア 目的及び事業の実施状況													
(ア) 目的													
図書館が所蔵する多様な資料や専門職としての司書の能力を最大限に生かし、地域の情報拠点として、県民の情報要求に応え、県民の生活課題に即した情報提供を実現する。													
(イ) 事業の実施状況													
＜医療・健康情報の提供＞													
○闘病記をはじめとした「当事者の語り」の普及啓発事業													
・「絵本『ばあばは、だいじょうぶ』映画上映会&原作者のミニトーク」の開催 内容：原作者のリモートミニトーク・映画上映													
<table border="1"><tr><td>実施日</td><td>令和2年11月21日(土)</td></tr><tr><td>会場</td><td>鳥取県立図書館</td></tr><tr><td>参加者</td><td>66名</td></tr></table>						実施日	令和2年11月21日(土)	会場	鳥取県立図書館	参加者	66名		
実施日	令和2年11月21日(土)												
会場	鳥取県立図書館												
参加者	66名												
・企画展示「認知症になっても暮らしやすいまちづくり～図書館とともに」 令和2年9月～11月													
・「闘病記が心の支えになったエピソード大募集」 令和2年8月～11月													
・「闘病記が心の支えになったエピソード」リーフレットの作成・配布 令和3年3月													
○新型コロナウイルスに関する情報発信													
・企画展示「感染症を知る～新型コロナウイルス・パンデミック」 「新型コロナウイルスについて知る 感染症・対策編 人権・働き方編」 通年													
・「新型コロナウイルスについてのリンク集」の更新 通年													
・連携展示「ひとりで悩まないで～自死予防」(健康政策課) 令和2年9月													
○連携展示													
・県医師会・鳥取大学医学部附属病院、認知症の人と家族の会鳥取県支部、県長寿社会課、 県健康政策課 等													
○全国図書館大会発表(オンライン大会) 令和2年11月20日～30日 視聴回数2,143回													
「鳥取県立図書館の暮らし支援サービスの歩み ～医療・健康情報サービス、高齢者サービスを中心に～」													
＜法律情報・困りごと解決支援情報の提供＞													
○「法テラスの日」記念無料法律相談会を開催(新型コロナ感染状況を考慮し、中止) 主催：日本司法支援センター鳥取地方事務所(共催：県立図書館)													
○「小学生裁判傍聴会 法廷に行ってみよう！」(新型コロナ感染状況を考慮し、中止) 主催：鳥取県弁護士会(共催：県立図書館)													
○関連機関と共同で相談会を開催(会場：県立図書館)													
<table border="1"><thead><tr><th>相談会名</th><th>開催時期、参加者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>鳥取県司法書士会無料相談会</td><td>新型コロナ感染状況を考慮し中止</td></tr><tr><td>鳥取県行政書士会無料相談会</td><td>10月、2月開催19名参加</td></tr><tr><td>鳥取県行政書士会外国人何でも無料相談会</td><td>10～3月に6回開催10名参加</td></tr></tbody></table>						相談会名	開催時期、参加者数	鳥取県司法書士会無料相談会	新型コロナ感染状況を考慮し中止	鳥取県行政書士会無料相談会	10月、2月開催19名参加	鳥取県行政書士会外国人何でも無料相談会	10～3月に6回開催10名参加
相談会名	開催時期、参加者数												
鳥取県司法書士会無料相談会	新型コロナ感染状況を考慮し中止												
鳥取県行政書士会無料相談会	10月、2月開催19名参加												
鳥取県行政書士会外国人何でも無料相談会	10～3月に6回開催10名参加												

<子育て応援情報の提供>

○「読みメンになろう！」プロジェクト事業

- ・読みメン月間の企画展示

期間等	令和2年6月1日（月）～6月29日（月）場所：児童図書室
内容	読みメンにおすすめの絵本、リーフレット等の展示

- ・読みメンのおはなし会（男性職員による絵本の読み聞かせ）の開催

開催日	令和2年6月6日（土） （定員制、事前申込制、時間短縮で実施）
参加者	6名：子ども3名、大人3名

※託児サービス「託児で来^{らい}ぶらり」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

<高齢者サービス情報の提供>

○「セカンドライフを楽しむための情報活用講座」の開催（会場：県立図書館）

- ・今年度2回開催予定であったが、新型コロナウイルス感染状況を考慮し、開催を中止した。

○「いきいきライフ応援コーナー」の運営

- ・超高齢化が進む中、中高年齢者に関心の高い分野の図書を提供するとともに関連する図書の展示を行った。

令和2年度貸出冊数	9,312冊
-----------	--------

○「あたまイキイキ音読教室」の開催（会場：県立図書館）

- ・参加者主体の運営に移行する予定であったが、新型コロナウイルス感染状況を考慮し、開催を中止した。

実施日・参加者数	毎月第4木曜日（1日2回開催、）中止のため参加者なし
----------	----------------------------

○「あたまイキイキテレビ音読教室」に係る新たな試行

- ・新型コロナによる影響で、館内で開催予定の音読教室を中止としたため、それに代わる事業として、ケーブルテレビによる音読教室の放映を行った。

放映状況	10月14日（水）～16日（金）19：00～
	10月21日（水）～23日（金）19：00～
	※放送時間5分（翌日昼頃まで繰り返し）
	再放映（放送時間15分）
	11月25日（水）～27日（金）17：00～17：15
	11月30日（月）～12月4日（金）
	13：45～14：00 17：45～18：00

<障がい者サービス情報の提供（障がい者に配慮した「はーとふるサービス」推進事業）>

○機器整備

- ・録音図書の再生機器を3台と点字プリンター1台を購入した。

○録音図書の貸出

貸出作品数	836点
-------	------

○「手話で楽しむおはなし会」の開催

実施日・参加者	毎月第4日曜日・延57名（子ども23名、大人34名）
---------	----------------------------

- ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4・5・8月は中止。再開後は、定員制、事前申込制とし、感染防止対策を徹底した上で実施した。

○「バリアフリー映画上映会」の開催

実施日	映画名	参加者
令和2年8月2日（日）	「おおきなかぶ」 「かんすけさんとふしぎな自転車」	6名

イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・認知症について、子どもから大人まで幅広い年齢層の方に理解していただくために、認知症をテーマとした絵本が原作である映画上映会を企画した。原作者の介護体験談をお聞きすることが大切と考え、コロナ禍においてはリモート開催ではあったが、会場の方に生の体験談を届けることができた。
- ・映画上映会は音声聞き取り易いように磁気ループを配置し、認知症の方と家族の方が安心して参加いただける環境を整えた。
- ・新型コロナウイルスの影響で、県立図書館で開催予定の高齢者を対象とした事業がすべて中止となったが、音読教室についてはその代替策としてケーブルテレビでの放映を企画し、試行的に実施した。

ウ 成果及び効果

- ・認知症をテーマとした絵本が原作である映画上映会には多くの方にご参加いただき、認知症や介護について理解を深め、当館のサービスを知っていただく良い機会となった。
- ・全国図書館大会はオンライン開催であったため、例年より多くの方に、当館の取り組みをお伝えすることができた。
- ・試行的に実施した音読教室のテレビ放映であったが、視聴者からの要望により再放送されるなど、かなりの反響があった。
- ・障がいの有無にかかわらず全ての方が等しく読書を通じて文字・活字文化の恩恵を受けることができる社会を目指すという読書バリアフリー法の趣旨に基づき「鳥取県視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画」を策定した。

エ 課題

- ・今後も関係機関と連携して闘病記をはじめとした「当事者の語り」を届けることにより、病気の方やそのご家族、高齢者が安心して暮らすことのできる地域づくりに貢献していく必要がある。
- ・県内の障がい者サービスの実態を把握するために行った調査の結果を分析して、今後の市町村立図書館の障がい者サービスの充実につなげていく必要がある。
- ・「鳥取県視覚障がい者等の読書環境の整備の推進に関する計画」を一般県民や関係者等に周知するとともに、この計画に基づき、読書バリアフリー推進のための具体的な取り組みを関係機関等と連携して実施していく必要がある。

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
仕事とくらしに役立つ図書館推進事業 (図書館ビジネス支援推進事業)					
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

県全域での図書館のビジネス支援体制を推進するため、各地域の図書館と協力し、ビジネス支援サービスの定着や利用者の掘り起こしに取り組む。産業振興や雇用の創出は、地域活性化を考える上で極めて重要な課題であるため、商工団体や産業支援機関との連携を強化し、図書館の機能を生かしたビジネス支援を積極的に行っていく。

(イ) 事業の実施状況

○「農業者のための情報収集セミナー」の実施(隔年)

期日等	令和3年2月27日(土)
参加者	47名
主催	鳥取県立図書館、倉吉市教育委員会(倉吉市立図書館)
内容	講演:「絶対にギブアップしたくない人のための成功する農業」 講師:岩佐大輝氏(株式会社GRA代表) ・図書館より情報提供(鳥取県立図書館 安藤理恵)

○「農業者のための図書館活用ミニ講座」の開催

期日等	令和2年11月14日(土) 会場:まなびタウンとうはく4階研修室
参加者	計46名(28名/18名)
主催	鳥取県立図書館、琴浦町図書館
内容	・「野菜づくりのコツと裏技(秋冬野菜編)」 ・「獣害対策のコツと裏技」 講師 向井道彦氏(農山漁村文化協会 中国四国支部 支部長) ・琴浦町図書館より情報提供(藤本館長)

期日等	令和2年12月1日(火) 会場:日南町総合文化センター多目的ホール
参加者	計59名(42名/17名)
主催	鳥取県立図書館、日南町立図書館
内容	・「野菜づくりのコツと裏技(春夏野菜編)」 ・「獣害対策のコツと裏技」 講師 向井道彦氏(農山漁村文化協会 中国四国支部 支部長) ・日南町図書館より情報提供(教育課 福田主事)

期日等	令和2年12月2日(水) 会場:ちえの森ちづ図書館 つどいの部屋
参加者	計33名
主催	鳥取県立図書館、ちえの森ちづ図書館
内容	・「野菜づくりのコツと裏技(春夏野菜編)」 講師 向井道彦氏(農山漁村文化協会 中国四国支部 支部長) ・ちえの森ちづ図書館より情報提供(國岡館長)

※ルーラル電子図書館（（一社）農山漁村文化協会が運営する農業と食生活に関する情報をまとめた有料のデータベース）を使用した講座。

※鳥取県立図書館が県内全市町村立図書館で利用可能な契約を結んだため、利用促進の機会として上記講座を開催。

○県立図書館とINPIT鳥取県知財総合支援窓口との連携事業

期日等	令和2年11月19日（木） 会場：県立図書館
参加者	9名
主催	鳥取県立図書館、鳥取県発明協会
内容	「J-Plat Pat(特許情報プラットフォーム)操作方法 実務講習会」 講師：INPIT鳥取県知財総合支援窓口 知財コーディネーター

○ビジネス情報相談会の開催（会場：県立図書館）（4月～3月）

・県立図書館司書と「鳥取県よろず支援拠点」※の相談員による相談会。相談者が求めるビジネス情報の検索は司書が行い、経営相談は鳥取県よろず支援拠点の相談員が行う。倉吉・米子の各会場も図書館職員が同席し、相談に応じた。

会場	開催日	相談数
鳥取会場	毎月第3火曜日	7名
倉吉会場	毎月第1水曜日	9名
米子会場	毎月第3金曜日	4名

※よろず支援拠点…国が全国に設置する経営相談所で中小企業・小規模事業者の売上拡大や経営改善など経営上の相談に対応している。

○関係機関と連携し定期相談会を開催（会場：県立図書館）（4月～3月）

相談会名	共催等関係機関	開催日	参加者数 (延数)
創業・融資相談会	日本政策金融公庫	毎月第2日曜日	16名
起業・経営 なんでも相談会	鳥取県中小企業診断士協会	毎月第2日曜日	
特許相談会	鳥取県知的所有権センター	毎月第2火曜日	12名
就農相談会	公益財団法人農業農村担い手育成機構	年3回	7名

○商工労働関連研修会、イベントへの出前図書館の実施（2回）

研修会、イベント名	会場
とっとり創業塾	鳥取商工会議所
とっとり建設☆女星ネットワークによる読み聞かせ勉強会	鳥取県建設技術センター

○企画展示 鳥取県認定グリーン商品のリレー展示の開催

内容	「鳥取県認定グリーン商品のリレー展示」
展示物	鳥取県認定グリーン商品の実物の展示、紹介パネルの展示など
主催	鳥取県認定グリーン商品普及促進協議会
期間	令和2年6月17日（水）から令和3年1月26日（火）
展示館	展示期間
鳥取県立図書館	令和2年6月17日（水）から令和2年7月30日（木）
米子市立図書館	令和2年8月1日（土）から令和2年8月26日（水）
倉吉市立図書館	令和2年9月11日（金）から令和2年9月22日（火）
鳥取市立図書館	令和2年10月3日（土）から令和2年10月28日（水）
青谷高校図書館	令和2年11月5日（木）から令和2年11月30日（月）
米子工業高校図書館	令和2年11月20日（水）から令和2年12月15日（火）
倉吉西高校図書館	令和2年12月9日（水）から令和3年1月26日（火）

○市町村立図書館で商用データベースを活用できる環境の構築

- ・「聞蔵Ⅱビジュアル」（朝日新聞）、「ヨミダス歴史館」（読売新聞）の新聞記事検索データベース、農業や食についての情報を扱う「ルーラル電子図書館」（農山漁村文化協会）を全州市町村立図書館で使用できるよう契約した。

イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・相談会を共催する機関と密な意見・情報交換を行い、意思疎通を図った。
- ・講座等の開催に際しては、市町村立図書館と協力し、事前準備・役割分担等を行った。

ウ 成果及び効果

- ・市町村立図書館と共催した農業の講座では、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら開催した。共催館と広報でも協働し、多くの参加者を得た。参加者の満足度も高く、共催館にとっても新たな展開への自信と意欲を生んだ。県内全州市町村立図書館で共同利用を開始したオンラインデータベース「ルーラル電子図書館」の利用促進につながった。
- ・農業講座ではI N P I T鳥取県知財総合支援窓口による種苗法改正についての説明も行き、I N P I T鳥取県知財総合支援窓口との協力関係が強化できた。
- ・県立図書館の起業・創業融資相談会の参加者のうち3組が起業。
- ・産業支援機関からの紹介で、資料相談を目的に来館されるケースや、産業支援機関の職員が調査のための資料相談で来館されるケースがあり、図書館のビジネス支援機能への理解が進みつつある。
- ・産業支援機関や、市町村立図書館からのビジネス関連の様々な相談に対応することで司書のスキルアップが進んでいる。
- ・新型コロナウイルス感染症のため中止となったイベントもあったが、企画展示を通じて県内企業の取組を知ってもらう機会を作ることができた。（県内7カ所の図書館と連携）

エ 課題

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、相談会や県立図書館で開催される予定の講座・セミナー、イベント（創業ウィーク、産業技術フェア）などが多数中止となったため、出前図書館などが実施できなかった。今後は担当者と随時、実施方法を相談しながら、出前図書館等を進めていく必要がある。
- ・中西部地域で図書館のビジネス支援機能の周知を図るため、より一層市町村立図書館と連携し、事業を展開していく必要がある。
- ・担当者の異動等により図書館との連携が弱まることのないよう、継続して図書館のビジネス支援機能を周知していく必要がある。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
人の成長・学びを支える図書館推進事業	233				233
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				
(概要)					
ア 目的及び事業の実施状況					
(ア) 目的					
乳幼児期からの子どもの読書推進を図るため、子どもたちに日常的に接する職員（幼稚園教諭、保育士、公共図書館職員等）の資質向上や、市町村立図書館児童図書部門の支援を行う。					
経済的に困窮する家庭やひとり親家庭などの「サポートの必要な家庭」を、図書館の「資料」や「場」の活用を通じて支援する。市町村立図書館と連携してサポートの必要な人へ図書館サービスを届けると共に、本を読むだけではない「居場所」としての図書館の可能性を追求する。					
(イ) 事業の実施状況					
<子ども読書活動推進>					
○「子どもと本をつなぐ講座」の開催					
・公共図書館職員、学校図書館関係職員等の子どもと子どもの本に関わる人々が、発達段階に応じた子どもの本の魅力や選び方について学ぶことで、子どもの読書活動に関する理解や関心を深め、取組のさらなる充実と促進を図る。					
期日等	① 令和2年11月26日（木） 会場：県立図書館 ② 令和2年11月27日（金） 会場：まなびタウンとうはく				
参加者	① 45名 ② 27名				
内容	「科学の本っておもしろい～子どもと楽しむ科学と科学絵本～」と題した科学読みものについての講義 講師：坂口美佳子氏（科学読物研究会 会員・仮説実験授業研究会「開楽クラブ」会）				
名称	内容・期日等			参加者等	
本の福袋	令和2年4月10日～6月10日			864冊	
	令和2年12月15日～令和3年1月24日 ※制限開館中も貸出			336冊	
ぼちぼちいかいな夏の図書館2020	展示「夏のチャレンジ」「課題図書2020」			1,115冊	
	展示「夏だ！夏だ！！」			339冊	
「えほんのじかん」	毎週火曜日	211名（大人106名、子ども105名）			
「おはなし会」	第4を除く日曜日			子ども47名	
「大人も楽しむおはなし会」	毎週土曜日	19名（大人10名、子ども9名）			
新刊児童図書の選定用貸出	市町村立図書館等へ貸し出し			3,674冊	
「ドリームティーンズコーナー」					
・10代の青少年の問題意識や興味に沿った資料収集やコーナー展示を実施 ホームページや通信の発行等による情報発信を行った。 展示テーマ：「サバ本～コロナ時代を生き抜く青少年たちへ～」 (貸出冊数 255冊)					
「わたしたちはどう生きるか～コロナ禍の中心で未来をさげぶ～」 (貸出冊数 143冊)					
「大巣籠×大晦日」 (貸出冊数 251冊)					
「新しい生活様式を求めて」 (貸出冊数 324冊)					
・児童書から10代向けの読み物への橋渡しとなるよう、登場人物が概ね中学生以上の児童書を配架したコーナーを新たに設置した。 (7月～：貸出冊数 2,094冊)					

時宜に応じた児童図書室の資料展示を実施。

展示テーマ：「春がきた！」（貸出冊数 254 冊）

「おいしい秋がやってきた」（貸出冊数 260 冊）

「みんなだいすきクリスマス」（貸出冊数 395 冊）ほか

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「えほんのじかん」「おはなし会」は4・5・8月、「大人も楽しむおはなし会」は4～9月の間、中止した。再開後は、定員制、事前申込制とし、感染防止対策を徹底した上で実施した。

<「サポートの必要な家庭」応援事業>

○「図書館=居場所!?キャンペーン～来て!見て!図書館」

- ・県内の市町村立図書館と連携し、自分自身や家族で図書館に来られない子どもたちに来館してもらうことを目的に、学校の校外学習やこども食堂、公民館等の遠足での来館を促すキャンペーンを行い、来館者にはステッカーをプレゼントした。
- ・図書館を居場所として活用することに賛同する学校図書館に対して、広報用のステッカーを提供した。

※当館で4団体37人の来館と、30周年記念事業の図書館ツアー25人の合計62人を受け入れた。

※19市町村の図書館に合計5千枚、4学校に合計200枚のステッカーを提供。

※コロナ禍で来館を勧めづらく、無理な実施はしなかった。

※来年度もキャンペーンを継続し、ステッカーを活用する。

○「新型コロナウイルス以降の新しい『暮らし方』・『働き方』を支える情報棚」を新設

- ・コロナ禍での生活や仕事に役立つ情報を紹介するチラシやパンフレットを収集・提供する棚を、図書館と公文書館間の共通玄関に設置した。

○関係イベントへの出前図書館の実施

期日	内容	主催者
9月26日(土)	令和2年度とっとり県民カレッジ講座「地域を育むサードプレイス」	鳥取県立生涯学習センター
1月23日(土)	鳥取大学サイエンスアカデミー「居場所に居るといふこと」	鳥取大学

○取り組みを広げるためのイベント等での事業紹介

期日	内容	主催者
9月11日(金)	令和2年度生活困窮者自立支援推進会議	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会

イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・制限開館中にも実施した本の福袋や新聞、テレビでの本の紹介、感染症対策を徹底した上で実施しているおはなし会を通じて、コロナ禍においても子どもの読書環境が維持されるよう取り組んだ。
- ・コロナ禍になり、図書館を居場所として活用するのが困難な一年だったが、市町村立図書館と連携して各館でできる範囲での取組を行った。

ウ 成果及び効果

- ・おはなし会や図書の企画展示、おすすめ本の紹介など、日々の活動により、親子で本を楽しむことや子育てに読み聞かせを取り入れることの良さが認知されることにつながっている。
- ・科学読みものをテーマとした「子どもと本をつなぐ講座」は、参加者の満足度も高く、今後の子どもの読書活動推進につながるものとなった。
- ・図書館を居場所とする活動を途切れることなく実施することができた。
- ・コロナ禍での貧困の問題を認識し、来年度以降へつながる一年にできた。
- ・当館での取組を参考に、生徒が図書館の在り方について考える「理想の学校図書館について考える」図書館ワークショップが鳥取県立境高等学校において開催された。

エ 課 題

- ・平成30年度から5カ年計画で実施することとしている「子どもと本をつなぐ講座」をはじめとして、今後も市町村立図書館職員、学校図書館関係職員、保育士・幼稚園教諭等、子どもと子どもの本に関わる人々にスキルアップの機会を提供し、県内の子どもの読書活動推進に向けて引き続き取り組むことが必要である。
- ・新型コロナウイルスの影響により、図書館での長期滞在を遠慮いただくなど、居場所としての活用推進は厳しい状況であったが、今後も続くコロナ禍において、経済的に困窮する家庭への支援が必要であることを再認識した。今後は方法を工夫し改めて取組を進めていきたい。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
郷土情報発信事業	4,412			78	4,334
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

郷土資料（地域資料）の収集・保存を進め、後世へ伝えるとともに、郷土資料の普及・啓発、郷土関係文学者情報の発信等を行い、利用促進を図る。

(イ) 事業の実施状況

鳥取県の歴史・文化、文学・文字活字、郷土出身人物等に対する県民の関心を高めるため、関係機関、団体とも連携しながら、資料展、講演会等を有機的に組合せて開催した。

○ふるさとの歴史再発見事業

名称	期日	会場	参加人数	講師・備考
特別資料展「遠藤董没後75周年記念 郷土文教の源流 遠藤董—若き日のすがた—」	R3. 2. 5(金) ～3. 10(水)	県立図書館2階 特別資料 展示室	396名	関連ミニ展示を1. 15(金) ～、通路ギャラリーで 開催
郷土文化講演会「トークセッション 遠藤董のすがたを求めて」	R3. 2. 21(日)	県立図書館2階大 研修室	63名	講師：北尾泰志氏（鳥 取県地域史研究会会 員）、竹氏倫子氏（美 術史研究者）、中田裕 子氏（元鳥取県立鳥取 聾学校教諭）
鳥取県に伝わる昔話を聞く会	9回（6. 7. 9 ～3月の第 4土曜日）	県立図書館2階小 研修室	のべ95 名	語り手：中嶋須美子氏

○郷土文学者情報発信事業

名称	期日	会場	参加人数	講師
鳥取文学講座 第1回「レッツ短歌」	R3. 2. 14(日)、 2. 20(土)	県立図書館2 階大研修室	各20 名	講師：池本一郎氏（ 歌人）
鳥取文学講座 第2回「めくるめく本の世界」	R3. 2. 27(土)	県立図書館2 階大研修室	20名	講師：村瀬謙介氏（ 小取社代表）

○「文字・活字文化の日」関連事業

・「ブックインとっとり記念講演会」開催（ブックインとっとり実行委員会と共催）

期日・参加者等	令和2年11月1日（土） 場所：米子市立図書館 参加者：51名
内容	ブックイン鳥取2020 第33回地方出版文化功労賞受賞記念講演会 講演1「ヴォーリズらの多面的な活動の発掘」 功労賞受賞者：吉田 与志也 氏（MSD株式会社監査役・滋賀県指 定有形文化財吉田家住宅管理者） 講演2「托卵鳥の卵の不思議」 奨励賞受賞者：内田 博 氏（鳥学会会員）

○開館30周年関連展示等

名称	期日	会場	参加人数	備考
特別資料展「県民に役立ち、地域に貢献する図書館—県立図書館30年のあゆみ—」	R2.10.1(木)～11.11(水)	県立図書館2階特別資料展示室	443名	
特別写真展示・フォトコンテスト「わたしと鳥取県立図書館」 応募作品展示・投票	R2.10.1(木)～10.30(金)	県立図書館1階閲覧室奥	応募29名	事前の写真撮影会を8/30・8/31に実施。参加者35名
企画展示「あなたの想いで染めよう メッセージツリー」	R2.10.1(木)～10.30(金)	県立図書館1階閲覧室中央	—	来館者からメッセージ募集
図書館クイズ	R2.10.1(木)～11.11(水)	県立図書館館内各所	—	
企画展示「鳥取県内の図書館紹介」	R2.11.13(金)～11.29(日)	県立図書館2階通路ギャラリー	—	

○その他の企画展示

名称	期日	会場	参加人数	備考
「杉原一司関係資料」展	R2.4.10(金)～6.10(水)	県立図書館2階特別資料展示室	218名	「杉原一司歌集」刊行会との共催
「皆生温泉開発100周年 かいけの街」	R2.6.18(木)～8.30(日)	県立図書館2階通路ギャラリー	—	
「鳥取県内観光地めぐり もっと楽しも！！鳥取県」	R2.8.5(水)～8.30(日)	県立図書館2階特別資料展示室	112名	
「鳥取県ができるまで～9月12日はとっとり県民の日」	R2.9.1(火)～9.29(火)	県立図書館2階通路ギャラリー	—	「とっとり県民の日」関連展示
「ベートーヴェンを聴いてみよう！」(CD展示)	R2.11.13(金)～12.9(木)	県立図書館1階閲覧室入口	—	CD利用促進のため、以後、月ごとにテーマ変更
「令和2年度鳥取県文化功労賞」受賞者紹介	R2.12.18(金)～R3.1.24	県立図書館2階通路ギャラリー	—	県文化政策課と連携

イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・県民に文学や活字文化に親しんでもらうため、県内で活躍中の文学者等を講師に迎え、初心者向けの「鳥取文学講座」を初めて開催した。
- ・開館30周年関連特別資料展では当館のこれまでの取組や県内図書館・関係機関とのネットワークについて紹介した。関連して、県民参加型の展示等も行った。
- ・遠藤董特別資料展では、当館所蔵の初公開資料や県内の関係機関・個人との連携により多くの貴重な資料や絵画作品等を紹介することができた。
- ・CDの利用促進のため、毎月テーマを変えながら一般図書と合わせて展示した。

ウ 成果及び効果

- ・資料展、講演会、企画展示等を多数開催することにより、鳥取県の魅力や県出身者の業績を発信することができ、県民に関心を持ってもらえる内容となった。また、郷土資料等の利用につながった。
- ・初開催の「鳥取文学講座」は能動的な講座となり、参加者の意欲・関心が高まった。
- ・CD展示を始めたことにより、とりぎん文化会館のイベントとの連携につながった。

エ 課題

- ・郷土資料の収集・整理、郷土情報の蓄積・情報発信により一層努める必要がある。また、これまで当館で行った展示等を県内図書館や学校図書館で行うなど、広く県民に郷土情報を知ってもらえるような発信を積極的・魅力的に行う必要がある。
- ・郷土資料の保存環境の点検を行い、災害等で滅失・破損等しないよう対策を強化するとともに、貴重な郷土資料のデジタル化を推進し、利活用の普及啓発に努める必要がある。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
図書館国際交流事業	5,178				5,178
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

環日本海諸国（韓国・中国・ロシア）の原書やその地域について記述された日本語図書の収集・提供を行うとともに、様々な事業を通じて、鳥取県（県民）と環日本海諸国との交流を促進する。また、英語教育や国際理解教育の推進等、世界で活躍する人材育成につながる情報収集・提供に努める。

(イ) 事業の実施状況

○環日本海諸国の図書館図書交換事業

- ・協定を結んでいる環日本海諸国の図書館との図書交換を進めた。

中国河北省		韓国江原道		ロシア沿海地方	
河北省図書館		春川市立図書館		ゴーリキー図書館 沿海州児童図書館	
送付	受領	送付	受領	送付	受領
103冊	未着	135冊	141冊	74冊	27冊

※未着の河北省図書館については、海外送付のための審査待ちとのこと。

○関係諸国の資料整備

- ・環日本海交流室・国際交流ライブラリーの閲覧用資料を購入
(図書788冊、雑誌32種、新聞4種)

○国際交流ライブラリー講演会の開催

講演会等名称	期日	会場	人数	講師
ロシア現代アートと絵本— 世界と人間のつながり—	R2. 9. 13 (日)	県立図書館	38名	鴻野わか菜氏 (早稲田大学教育・総合科学学術院教授)
演劇が編む日韓の未来	R2. 12. 6 (日)	倉吉古流プラザ	44名	中島諒人氏 (鳥の劇場芸術監督)
【中止】翻訳絵本の楽しみ※ コロナの影響により講師が来鳥不可	R3. 1. 30 (土)	米子市立図書館	—	福本友美子氏 (絵本翻訳家)

○「外国語で楽しむえほんのじかん」の開催

- ・外国語絵本の読み聞かせと外国の文化紹介を行った。
- ・読み手は、ボランティアと県立図書館職員。

実施回数・参加者	年3回・延べ72名
対象言語	英語、中国語、ロシア語

イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・国際交流ライブラリー講演会では、県中・西部の図書館と共催し、各地域の課題に沿ったテーマ等について企画段階から相談・調整を行った。
- ・企画展示では、国際交流に関する県政やその時々話題等をテーマに、関連図書を紹介した。
- ・タイムフェスティバル (国際交流団体や在住外国出身者等がそれぞれの活動、国を紹介する催し) に出展し、国際交流ライブラリーの紹介・本の貸出を行った。

- ・毎年、外国語図書の選書のため東京の書店へ出張しているが、新型コロナウイルス感染症予防対策の一つとして、令和2年度は、各書店と連絡を取り、ホームページ、図書リスト、雑誌等を参考に選書を行った。

ウ 成果及び効果

- ・講演会（2回）は、ロシア現代アート、韓国演劇をテーマに開催したが、参加者の関心が高く満足する内容となった。（新型コロナウイルス感染症予防対策として、第1回目の講演会は、リモートでの開催に急遽変更した。）開催後は関連図書の貸出も多く、図書館利用の促進につながった。
- ・「外国語で楽しむえほんのじかん」等の行事、図書展示、出前図書館等を行うことにより、県民が国際理解や環日本海諸国等への関心を深める機会を提供することができた。

エ 課題

- ・国際理解のための講演会や行事等を引き続き開催し、国際交流ライブラリーの利用を促進する。また、本や図書館資料を活用した多文化共生をテーマとした交流イベントを開催し、県内在住外国人と地域住民の交流の場となるようにする必要がある。
- ・市町村立図書館と協力し、県内での環日本海交流室及び国際交流ライブラリーの利用促進並びに学校等へのレファレンスや資料提供等の支援を充実する必要がある。
- ・鳥取県が交流している環日本海の国々について、引き続き図書館としての交流や、国際理解のための活動を行う。また、新たにモンゴル中央県立図書館との図書交換を通じた交流を始める必要がある。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
生きる力を育むとっとり学校図書館活用教育普及事業	512				512
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				
(概要)					
ア 目的及び事業の実施状況					
(ア) 目的					
平成27年度に策定した「学校図書館活用教育推進ビジョン」及び「学校図書館活用ハンドブック」をもとに、就学前から小、中、高等学校まで一貫した見通しを持った学校図書館活用教育の一層の普及を図る。					
新学習指導要領を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、学校図書館を活用した授業の年間計画作成や具体的な実践、学校図書館関係職員の能力向上に資する研修、その他広く教職員と学校図書館活用の意義を共有できる研修を実施し、学校現場での図書館活用教育の推進を支援する。					
(イ) 事業の実施状況					
○学校図書館活用教育普及講座の実施					
期日等	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年8月19日(月) 倉吉交流プラザ ・令和2年8月20日(火) 米子市役所淀江支庁舎 ・令和2年8月21日(水) 鳥取県立図書館 				
参加者	合計91名 (対象：小中学校・特別支援学校教職員・市町村教育委員会指導主事)				
内容	「今こそ、学校図書館を計画的に活用しよう！ ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすために～」 午前：講義「学校図書館活用に関する最新の情報、授業活用例について」 午後：演習「図書館活用年間計画の作成と活用のために」 講師：帝京大学教育学部初等教育学科 教授 鎌田和宏氏 ・3か所全ての会場で講師が東京から遠隔で講義と演習を行うリモート開催				
○学校図書館司書研修会(年1回)					
内容・講師		期日	参加者	会場	
県立図書館開館30周年記念シンポジウムへの参加に替える		10月16日 10月17日	13名	県内 各会場	
○学校図書館新任司書研修会(年2回)					
内容・講師		期日	参加者	会場	
「学校図書館の活用と司書の役割」高橋和加司書主任		6月17日	5名	鳥取東高校	
「学校図書館の運営と校内の連携」宮脇真理司書主任		9月17日	11名	倉吉総合産業高校	
「小論文指導の実際と学校図書館の役割」秋藤泰之教諭					
○学校図書館支援員の研修会派遣					
・学校図書館関係職員対象 派遣回数8回 研修参加人数90名					
研修会	実施市町村	内容			
市町村教育委員会及び市町村立図書館主催研修会	鳥取市、境港市、大山町、西伯郡	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領と学校図書館活用について ・公立図書館の学校図書館支援について ・学校図書館活用の具体例 ・年間授業計画の作成について ・学校図書館と司書教諭、学校司書の役割など 			

○学校での図書館セミナー

- ・生徒対象 派遣回数1回、研修参加人数10名

研修会	学校	内容
研究ゼミ	鳥取大学附属特別支援学校	・著作権について

○県教育センターとの連携

- ・学校図書館支援員が講師を務めた。

合計3回 研修参加人数172人

研修会	対象	内容
新任司書教諭研修	小・中・高・特別支援学校の 新任司書教諭と希望者	「学校図書館と司書教諭の役割」
司書教諭研修(小・特)	小・特別支援学校の全司書教諭	「学校図書館の活用と司書教諭の 果たす役割」
司書教諭研修(中・高)	中・高等学校の全司書教諭	「学校図書館の活用と司書教諭の 果たす役割」

○高校生の読書推進事業

- ・「高校生にすすめたい本パンフレット」作成と配布

高校、特別支援学校の学校図書館より紹介された高校生へのおすすめ本34冊を掲載したパンフレットを作成し、県内の高校・特別支援学校高等部生徒へ配布。

- ・パンフレット掲載の本の中から読みたい本への生徒による投票を実施。 5922票

○「全国高等学校ビブリオバトル2020鳥取県大会」

日 時	令和2年12月13日(日)13時~16時
場 所	倉吉体育文化会館 大研修室・中研修室
出場校・出場人数	10校・10名
参加人数	70名(出場者・観覧者・スタッフ等)
チャンプ本	『オーブランの少女』(深緑野分・東京創元社) 倉吉東高等学校

○授業活用選定用見本図書の貸出

- ・学校や各市町村立図書館に紹介。1市町村当たり合計3セットを貸出した。
- ・全点購入の新刊児童図書(選定用)の利用が多かった。(2796冊)

イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため集合研修の開催が困難だったが、リモート開催や会場設置の工夫により研修の機会を確保するように努めた。

ウ 成果及び効果

- ・学校図書館関係者への「鳥取県学校図書館活用教育推進ビジョン」の普及が進み、学校図書館が「情報センター」としての機能を発揮して、年間授業計画の見直しが進んだり、学校図書館が軸となって情報活用能力の育成を進めるような先進事例が見られるようになったりしている。
- ・公共図書館職員向けの研修で学校図書館支援についてのテーマを扱う機会が増え、公共図書館と学校図書館の連携につながっている。

エ 課題

- ・GIGAスクール構想の実現に向けて各市町村でICT環境が整備される中で、図書館活用教育に求められる内容も変化している。これからの学校図書館に必要な要素を見極め、資料提供や研修の開催など、学校図書館や公共図書館支援を充実させていくことが必要である。
- ・新学習指導要領に基づく授業が実施される中、より学校でのニーズに即した情報提供や研修内容が求められる。
- ・高校での総合的な探究の時間等、各学校における探究的な学習での学校図書館の活用に差があるため、学校図書館関係者にとどまらず、全教職員の意識を高めるため、研修や情報提供を行っていく必要がある。
- ・情報活用能力の育成に不可欠な、計画的な学校図書館活用が県内で伸び悩んでいる実態があるため、学校図書館利活用に向けて、ICT活用とも関連した研修会を開催したり、情報提供をしたりしながら推進していく必要がある。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
市町村立図書館等協力支援事業	7,454				7,454
将来ビジョン	—				
令和新時代創生戦略	—				
政策項目	—				

(概要)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

市町村立図書館等の機能向上を図るため、資料・情報を提供すると共に、各館の職員のスキルアップを目的とした研修会・講座を開催する。各館と連携し、住民に対し図書館利用を啓発する事業を実施する。県全体の図書館サービスの高度化を図り、ネットワークの要としての役割を果たす。

(イ) 事業の実施状況

市町村立図書館等に対し、宅配便によるリクエスト本の配送、一括大量貸出、訪問相談、資料相談を行った。司書の技術向上を図るため、以下の研修事業を実施した。また、新規事業として図書館を活用した地域情報の発信について学ぶ研修会を開催した。

<令和2年度の市町村立図書館等への貸出冊数>

支援先	平成30年度	令和元年度	令和2年度
市町村	61,661冊	58,524冊	54,282冊
高等学校	30,205冊	23,279冊	29,031冊
特別支援学校	16,185冊	15,192冊	17,200冊
病院図書室	3,821冊	4,313冊	4,582冊
大学・団体・その他	4,865冊	4,335冊	3,389冊
合計	116,737冊	105,643冊	108,484冊

※新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、休館や利用制限を行うなど、通常の図書館サービスが行えなかったことが、貸出冊数の減少につながった。

○図書館業務専門講座（年4回）

・高度化・多様化する利用者のニーズに対応するために、図書館職員のスキルアップを目的とした研修を実施した。

内容・講師	期日	参加者	会場
「図書館で本を選ぶということー「図書館の自由」を手がかりに」 ・講師：山口 真也 氏 (沖縄国際大学総合文化学部日本文化学科教授)	R2.10.23	41名	鳥取県立図書館
「読書バリアフリー法施行とこれからの公共図書館の役割 ～だれもが身近に読書を楽しめるように」 ・講師：宇野 和博 氏 (筑波大学附属視覚特別支援学校教諭)	R2.11.20	40名	倉吉交流プラザ
「わかりやすい表現で利用案内を作ろう」 ・講師：打浪 文子 氏 (淑徳大学短期大学部こども学科准教授)	R2.12.23	36名	鳥取県立図書館
「トラブルや災害に備えよう ～ 図書館の危機管理」 ・講師：千 錫烈 氏 (関東学院大学社会学部 准教授)	R3.2.2	26名	米子市立図書館

○新任職員のための図書館職員実務研修会

内容	講義映像 視聴者数
図書館の社会的役割・機能 県立図書館の市町村支援・学校支援 本の正しい扱い方と郷土資料の活用法 資料相談（レファレンス）の基礎知識とデータベース活用法	22名

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、4月24日に開催を予定していた集合研修を中止とした。鳥取県立図書館のホームページでの資料の公開および希望する館に講義映像の貸出を行った。

○図書館職員実務研修会+αとして下記の研修を実施。

内容・講師	期 日	参加者	会 場
「すぐにでもレファレンスに使える データベースやインターネット情報あれこれ」 ・講師：高橋 真太郎（鳥取県立図書館情報相談課相談担当係長）	R2. 8. 6	22名	鳥取県立 図書館

○「鳥取県ジュニア司書養成講座」の開催

実施館	期 日	修了者
米子市立図書館	R2. 8. 6～8. 7	6名
大山町立図書館	R2. 8. 1～8. 2	3名

※鳥取県立図書館は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止とした。

○県立図書館職員が講師を務めた研修

・市町村立図書館職員のスキルアップのため、希望する図書館の研修会に出向き研修を行った。

内容・講師	開催市 町村	期 日	参加者
鳥取市立図書館職員研修（レファレンス、データベース（新聞記事）、館内見学） 高橋真太郎（情報相談課相談担当係長） 三田祐子（支援協力課市町村担当係長）	鳥取市	R2. 4. 10	30名
境港市民図書館研修・境港市学校司書研修（学校図書館と公立図書館の連携） 高橋孝子（支援協力課学校図書館支援員）	境港市	R2. 11. 11	15名
大山町学校司書研修会（学校図書館と公立図書館の連携） 高橋孝子（支援協力課学校図書館支援員）	大山町	R2. 11. 19	13名
米子市立図書館職員研修（レファレンス） 高橋真太郎、中村愛（情報相談課相談担当）	米子市	R2. 10. 31	19名
境港市民図書館職員研修（データベース（新聞記事）・SNS） 高橋真太郎、中村愛（情報相談課相談担当）	境港市	R2. 12. 9	12名
大山町立図書館専門業務研修会（行政支援） 網浜聖子（鳥取県立図書館長）	大山町	R3. 1. 15	12名

○県立図書館の職員が市町村の図書館運営に関する委員などを務めた事例

委員の名称・委員名	市町村名	任 期	備 考
岩美町立図書館協議会委員 中村 愛（情報相談課司書）	岩美町	R. 2. 4. 1～R4. 3. 31	
江府町図書館協議会 藤井美華子（支援協力課長）	江府町	R. 2. 4. 1～R3. 3. 31	
わかさ図書館運営委員会 藤井美華子（支援協力課長）	若桜町	R. 2. 4. 1～R3. 3. 31	

イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、図書館業務専門講座はリモートによる開催を初めて行った。講師が別会場で講義を行い、参加者は会場に集合し、感染対策をとりながら演習なども行った。
- ・市町村立図書館職員を対象とした館内研修において、当館職員が講師を務めるなど県内図書館支援を行っている。研修は市町村立図書館の要望に沿った内容とし、市町村立図書館職員のスキルアップを図った。

ウ 成果及び効果

- ・講座の受講者から、「すぐにでも活用できるアイデアがあった。」などの感想が寄せられ、講座の受講が図書館サービスの改善につながっている。
- ・国による読書バリアフリー基本計画が公表され、図書館においても関心が高まっていることを受け、図書館業務専門講座で読書バリアフリー法を取り上げるなど、最新のテーマについて学ぶ機会を市町村立図書館職員に提供し、公共図書館に係る喫緊の課題意識や情報の共有を図ることができている。

エ 課題

- ・支援の充実のためには、各館を訪問し（訪問相談）、現場のニーズを把握することが必要である。
- ・図書館が知の情報拠点としてこれまで以上に活用されるように、図書館のサービスや機能を広く県民に知ってもらうための市町村立図書館と協力した一層の取組が必要である。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳				
		国庫支出金	起債	その他	一般財源	
図書館運営費(資料購入整理費)	99,551			4,100	95,451	
将来ビジョン	—					
令和新時代創生戦略	—					
政策項目	—					
(概要)						
ア 目的及び事業の実施状況						
(ア) 目的						
多様化・高度化する県民の要望に的確に対応するため、あらゆる分野の最新資料、専門的な資料、郷土資料、市町村や学校を支援する資料等、蔵書の充実を図る。						
(イ) 事業の実施状況						
○図書及び逐次刊行物の整備充実						
・県民の専門的な要求にも応えられるよう資料の充実を図り、逐次刊行物について広範な分野で最新の情報が提供できるよう充実に努めた。						
○一般図書・児童図書等の除籍						
・複本のあるものや旧版の資料、内容が古く利用のないもの、資料の状態が悪くなったものを除籍した。						
<資料の整備状況>						
区分		R2年3月末 冊数	購入等 (寄贈含む)	除籍	計	R3年3月末 冊数
蔵書合計		1,183,258	31,026	△ 3,297	27,729	1,210,987
内訳	一般	813,083	23,153	△ 2,641	20,512	833,595
	郷土	146,643	2,789	△ 17	2,772	149,415
	児童	121,203	3,107	△ 558	2,549	123,752
	協力	79,834	1,889	△ 65	1,824	81,658
	その他	22,495	88	△ 16	72	22,567
イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点						
・少子高齢化が進んでいることを踏まえ、高齢者や子育て世代への支援を行う資料の充実を図った。						
・ビジネス支援やレファレンスに活用できる参考図書の充実を図った。						
・複本や旧版資料の除籍を進めた。						
ウ 成果及び効果						
・「いきいきライフ応援コーナー」や「子育て応援コーナー」の資料、介護や認知症関連の資料など、関係者や関心のある県民に多く利用された。						
・ビジネス支援をはじめ、相談業務でのレファレンスツールとして活用された。						
・不要資料の廃棄を進め、書庫の空き容量の確保に努めた。						
エ 課題						
・多様化、高度化する県民の要求に応えるために、専門家の助言を参考にしながら、最新の資料を幅広く収集する必要がある。						
・郷土資料については、出版情報を逐次確認しながら、網羅的な収集に努める必要がある。						
・蔵書数の増加により、閉架書庫を含めた書架の空き容量が減少してきており、今後の資料増加に対応するため、複数所蔵している資料、版を重ねている資料、内容が古くなった資料等を除籍し、空き容量を確保していく必要がある。						